

# 名工大における大規模災害に対する取り組み

平原 英樹  
名古屋工業大学

## 1. はじめに

名工大では例年 10 月 13 日頃に防災訓練を実施している。以前は建物単位で実施してきた訓練を今後発生が予想される南海トラフ地震に備えるため、2016 年度からは全学規模での訓練を実施し、教職員・学生の防災に対する意識向上が重要な課題となっている。

全学規模での訓練実施に当たり、安全管理委員会防災・防犯部会の下に、事務局職員と各類（学科）からの教員を加えた計 17 名で構成する防災訓練ワーキンググループ（WG）が設置されており、年 3～4 回の会議を開催、訓練実施に向けて学内避難場所の設定や各建物における避難体制等についての検討、および訓練実施後の課題や改善点の抽出を行ってきた。

今回は 2023 年度での防災訓練の実施報告を中心に、大規模災害に対する取り組みについて報告する。

## 2. 2023 年度防災訓練実施について

### 2-1 全学避難訓練

2023 年度防災訓練は、2023 年 10 月 13 日（金）12 時 02 分に、震度 6 強での緊急地震速報の発報を合図に開始した。訓練内容は第一部としてシェイクアウト訓練、全学避難訓練、避難者確認訓練、安否確認訓練を、第二部として本部訓練を実施した。シェイクアウト訓練後、学内各建物より教員の誘導により各避難場所への避難を実施した。一時避難場所の避難状況を写真 1 に、身分証打刻による避難確認状況を写真 2 に示す。なお避難に要する時間は 30 分程度を見込んでいたが、実際には 20 分程度と想定より早い時間で一時避難場所への避難を完了させることができた。



写真 1 一時避難場所での避難状況

### 2-2 本部訓練

これまでの防災訓練実施後で出された課題の中で、特に本部訓練の内容を充実してはどうかとの意見が数多く寄せられていた。このため 2023 年度の防災訓練ではお昼休みを挟んだ 14 時より本部訓練を二部形式で実施を試みた。第一部に本部会議報告訓練を、第二部としてワークショップ形式のシナリオ付与訓練を実施した。本部会議報告訓練では、事務局各班より初動対応の対応状況、および一時避難場所担当班からは避難確認データの集計結果について報告された。各避難場所での避難者数の一覧を表 1 に示す。今回の訓練での避難者数は総計で 2,113 名であった。前回の全学避難訓練実施時と比較すると 244 名減少している。特にグラウンドエリアでは残留者数が 31 名いた旨の報告があり、これ以外にも学生が講義室に残留していた可能性があると思われる。また、訓練開始時よりも早く講義を終了して学外に出た学生も見受けられたとの情



写真 2 避難確認実施状況

表 1 避難者数等集計結果

避難場所	教職員	学生	学外者 業者等	合計	残留者	負傷者
図書館前	147	414	0	561	12	0
16号館前	204	491	1	696	8	1
グラウンド	102	711	43	856	31	0
身分別計	453	1,616	44	2,113		

報もあり、構成員の防災に対する意識向上が課題となった。

引き続き複数のシナリオ（条件設定）を付与し、その条件下での各班のタスクの確認、情報共有・部門間連携のポイントの確認、および課題の抽出に取り組むことを目的に、シナリオ付与訓練をワークショップ形式で実施した。具体的には、夏休み時期でのオープンキャンパス実施中に大規模地震が発生したことを想定して、前半では班毎で対応策を検討してもらい、シナリオ条件下で「やるべきこと」を挙げ、上位3項目を抽出させた。また訓練後半では、「やるべきこと」に対して「対応に必要なリソース（人・モノ・情報・予算等）」「学内外の連携先・入手先」を検討してもらい、それぞれに対し「現状の実効性の可否」と「今後必要なアクション」を抽出させ、各班より抽出内容を発表頂いた。写真3、4にシナリオ付与訓練実施の様子を示す。

### 2-3 安否確認訓練

構成員全員を対象に安否確認訓練を実施した。本学独自開発の安否確認システムを利用して一斉にメール送信を行い、メール文末にある URL をタップすることで無事である旨が通知されるものである。表2に安否確認メールの回答率を示す。教職員は84%の回答に対して、学生は38%と伸び悩んだ。学生に対しては、ガイダンス等で安否確認の重要性を周知してはいるが、年度前期にも安否確認メール送付をする等、習慣づけできる環境を整えていきたいと考えている。

### 3. Moodle を活用した防災教育 E-learning の実施

コロナ禍であった2020～2021年度にかけた時期は、全学避難訓練実施が困難であった。このため本部での机上訓練および安否確認訓練を軸に防災訓練を実施したが、これだけでは内容が不十分であると考えた。そこで、構成員に対し防災に関する知識向上を図ることを目的として、授業で活用されている Moodle を活用し、2020年度から防災教育 E-learning コースを開設した。開設当初の2020年度では、特に学生での受講率が20%程度と非常に少なかったため、2023年度ではコース登録をしていない学生を対象にして、情報基盤センターの協力を頂いて学生ポータルへのアクセス制限を課すことにした。その結果、学生受講率が65%程度にまで伸び大幅に改善させることができた。なお教職員における受講率は70%程度で、引き続き構成員に対して防災意識の向上ツールとして役立てていければと考えている。

### 4. まとめ

昨年度実施の防災訓練時に出された課題を解決すべく、本年度実施内容について現在検討を行っている。また本年5月から6月にかけて、防災教育 Moodle の前倒し開設を始めとして、外部講師を招いての防災講演会や安否確認訓練の単独実施も実施し、防災訓練以外にも日頃より大規模災害に備えるべく取り組んでいる。災害派生の際には、一人も犠牲者を出さないよう今後も安全管理業務に尽力していきたい。

### 謝辞

本報告を行うにあたり、安全管理室の皆様や防災訓練 WG 委員を始めとした本学構成員の皆様方より多大なご協力・ご支援を頂きました。ここに記して深く感謝申し上げます。



写真3 シナリオ付与説明



写真4 各班による対応策抽出作業

表2 安否確認メール回答率

区分	発信数	回答数	回答率
学生	5,754	2,192	38%
教職員	950	796	84%
全体	6,704	2,988	45%